井桁 学：パソコンでデモ・テープを作ろう！

パソコンを使って音楽を作る……今や特別難しいことではありません。しかし、正しい制作プロセスを知っていれば効率的な作業ができますし、そのプロセスごとのノウハウを学ぶことによって、さらにクオリティの高い作品を作ることもできるでしょう。講師は、ギターやホーム・レコーディングについての教則本を数多く執筆している井桁 学さんです。

第２回：セッティングして録音の準備をしよう

（2008 年 7 月 15 日）

私事ですが、初めてのパソコン・レコーディングは、Macintosh Plus と Perfomer 2.0 でした。メモリ 2MB で HD なしという、今では考えられない機材で、そうとう昔です……（笑）。時を経て、Digital Performer に変わり、2003 年に Windows に移行。現在は、Cakewalk by Roland の SONAR をメイン DAW ソフトして使用しています。とはいえ仕事柄、Cubase や Logic、GarageBand、LIVE なども使い、レコーディング・スタジオでは Pro Tools HD や LE まで使ってきました。

DAW ソフトにはたくさんの種類がありますが、今やできることはほとんど同じです。さらに、制作者側から言えば、作曲やアレンジ、レコーディングという作業は、何を使っても同じ。なので、DAW ソフトの選び方は、いかに長い時間付き合っていけるかがポイントでしょう。個人的には、創造性が沸くデザインの方がいいと思います。

さて、今回は前回紹介した必要なツールをどう接続するのか？　そして初期設定なども含めてセッティングを紹介していきたいと思います。

（１）パソコンとオーディオインターフェースの接続

音を再生したり録音したりするために、パソコン、オーディオ・インターフェース、モニター・スピーカーの３つの機材を接続しましょう。

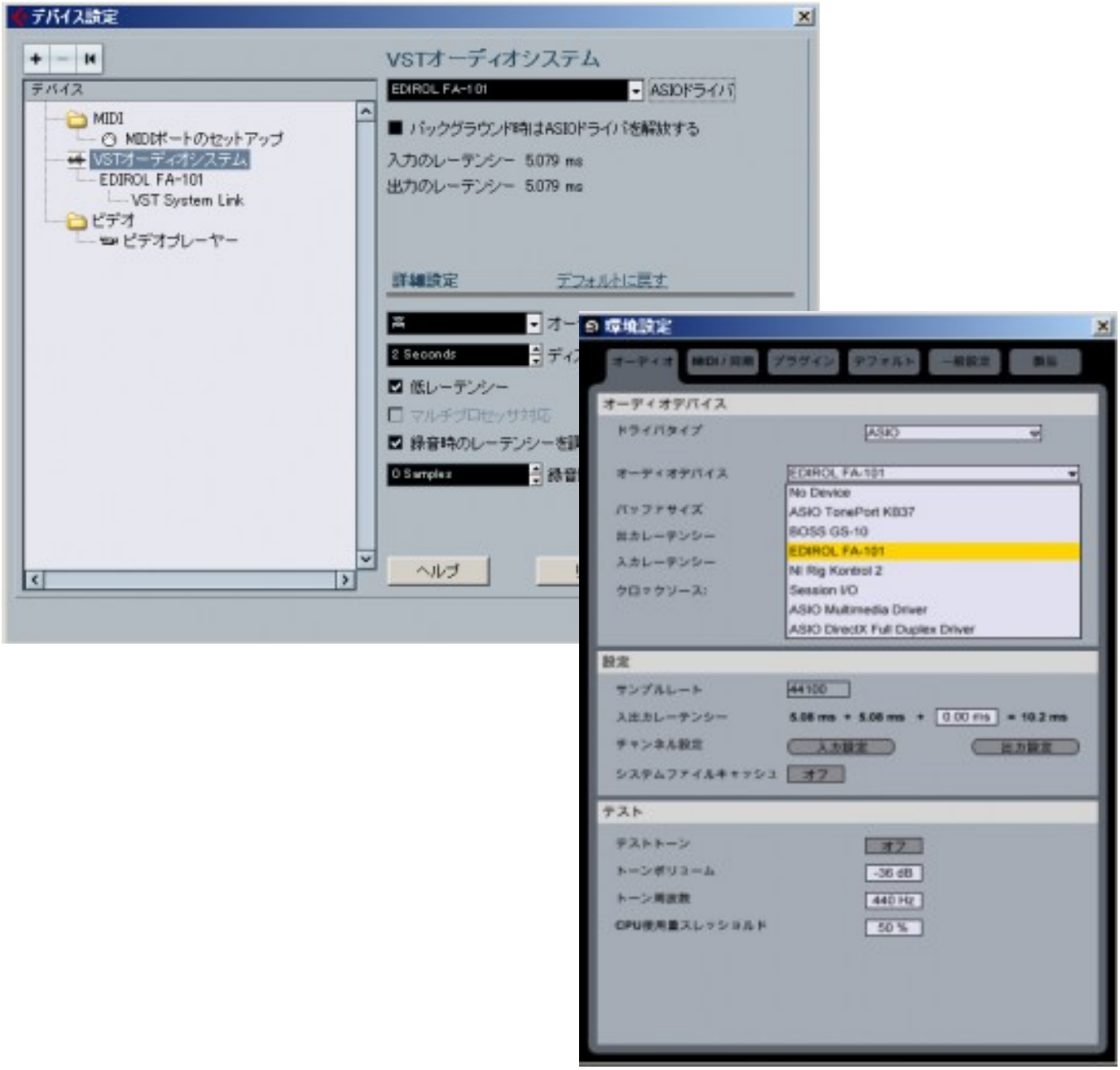
まずはパソコンとオーディオ・インターフェースを接続します。オーディオ・インターフェースは USB か FireWire のどちらかのタイプになっていると思うので、その端子同士を専用のケーブルでつなげてください。オーディオ・インターフェースには、電源（AC アダプター）が必要なタイプと、いらないタイプ（USB バス・パワー、FireWire バス・パワー）のものがあるので注意してください。また、オーディオ・インターフェースの種類によっては、ドライバーをインストールしてパソコンに認識させる必要があります。このへんについては、取扱説明書を読んでチェックしてください。
次に、オーディオ・インターフェースとモニター・スピーカーを接続します。オーディオ・インターフェースの背面（裏側）に“OUTPUT”か“MONITOR OUT”という端子があるはずなので、この端子からモニター・スピーカーに接続します。

▲ EDIROL UA-25EX

▼ TERRATEC PRODUCER

（2）DAW ソフトのインストールとセッティング

次にパソコンに DAW ソフトをインストールします。インストール後、DAW ソフト上で使用するオーディオ・インターフェースを選択します。画面は上が STEINBERG Cubase LE、下が Ableton Live の例です。



セッティングが終了したら、DAW ソフトに収録されているデモ・ソングを再生して、モニター・スピーカーから音が出るかチェックしましょう。

複数のオーディオ・インターフェースが接続されていると、パソコンが迷ってエラーを起こすことがあります。特に Windows の場合は、パソコン内にすでに搭載されているオーディオ・インターフェースのドライバーを無効にすることをオススメします。設定は Windows XP の場合［コントロールパネル］→［システム］→［ハードウェアタブ］→［デバイスマネージャー］→［サウンド、ビデオ、およびゲーム・コントローラー］から、既存のオーディオ・インターフェースのドライバを右クリックし“無効”に。

（3）その他のアイテムをオーディオ・インターフェースに接続する

それでは、あると便利なアイテムの接続をしていきましょう。

MIDI キーボードがある場合は、“MIDI キーボードの MIDI OUT”と“MIDI インターフェースの MIDI IN”を MIDI ケーブルで接続しましょう。この MIDI インターフェースはオーディオ・インターフェースに付属していることも多く、その場合は別に用意する必要はありません。また、最近は USB 接続のキーボードもあります。その場合専用のドライバーをインストールしてパソコンに認識させてから使用しましょう。

次に、録音する際に必要となるギターやベースのシールドなどをオーディオ・インターフェースのインプットにつなぎ、レベル調整してから録音します。オーディオ・インターフェースの種類によっては、Hi-Z スイッチが搭載されているものもあり、その場合はギターやベースから直接つないで、Hi-Z スイッチを ON にして録音しましょう。

▲UA-25EX の Hi-Z スイッチ

ボーカル録音やアコギの録音などではマイクが必要になります。ダイナミック・マイクの場合はそのままケーブルをオーディオ・インターフェースに接続して録音できます。高価なコンデンサー・マイクなど使う場合には電源供給が必要です。ファンタム電源（+48V PHANTOM）スイッチが搭載されていれば、オンにしてから使用してください。

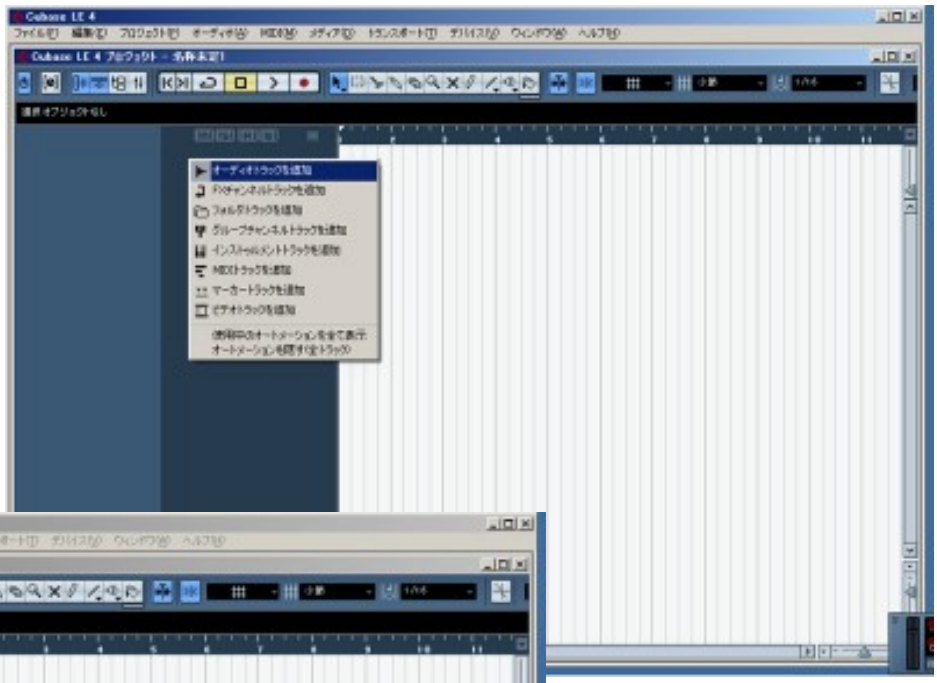
▲ダイナミックマイク：SHURE

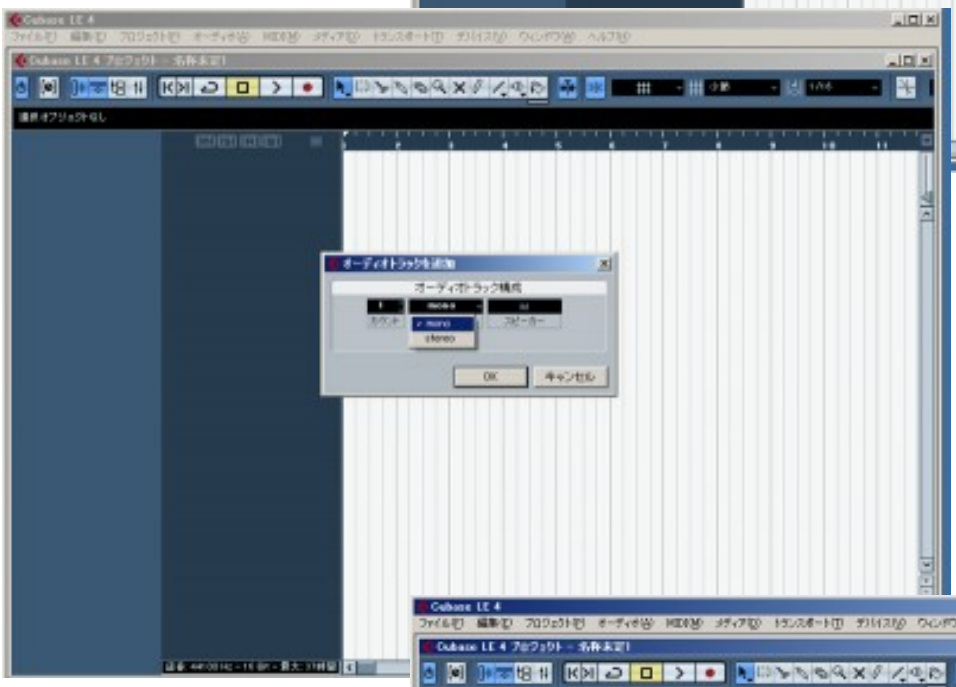
▼コンデンサーマイク：RODE

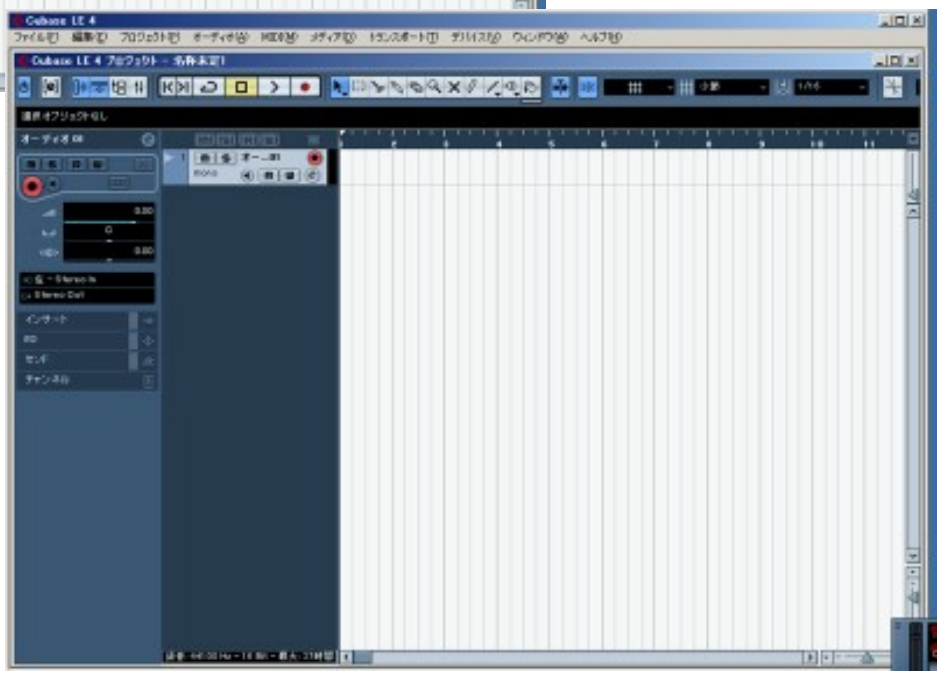
◀UA-25EX 背面にある PHANTOM 電源のスイッチ

★★★ポイント！★★★

ギターやベース、ボーカルなどを録音するときには、DAW ソフト上から［オーディオ・トラックを追加］します。このとき、“モノラル・トラック”にすることを覚えておきましょう。ステレオ・エフェクトを使って録音しない限り、ギターやベース、ボーカルはモノラル楽器です。シンセサイザーのようなステレオ楽器の場合は、“ステレオ・トラック”にしましょう。

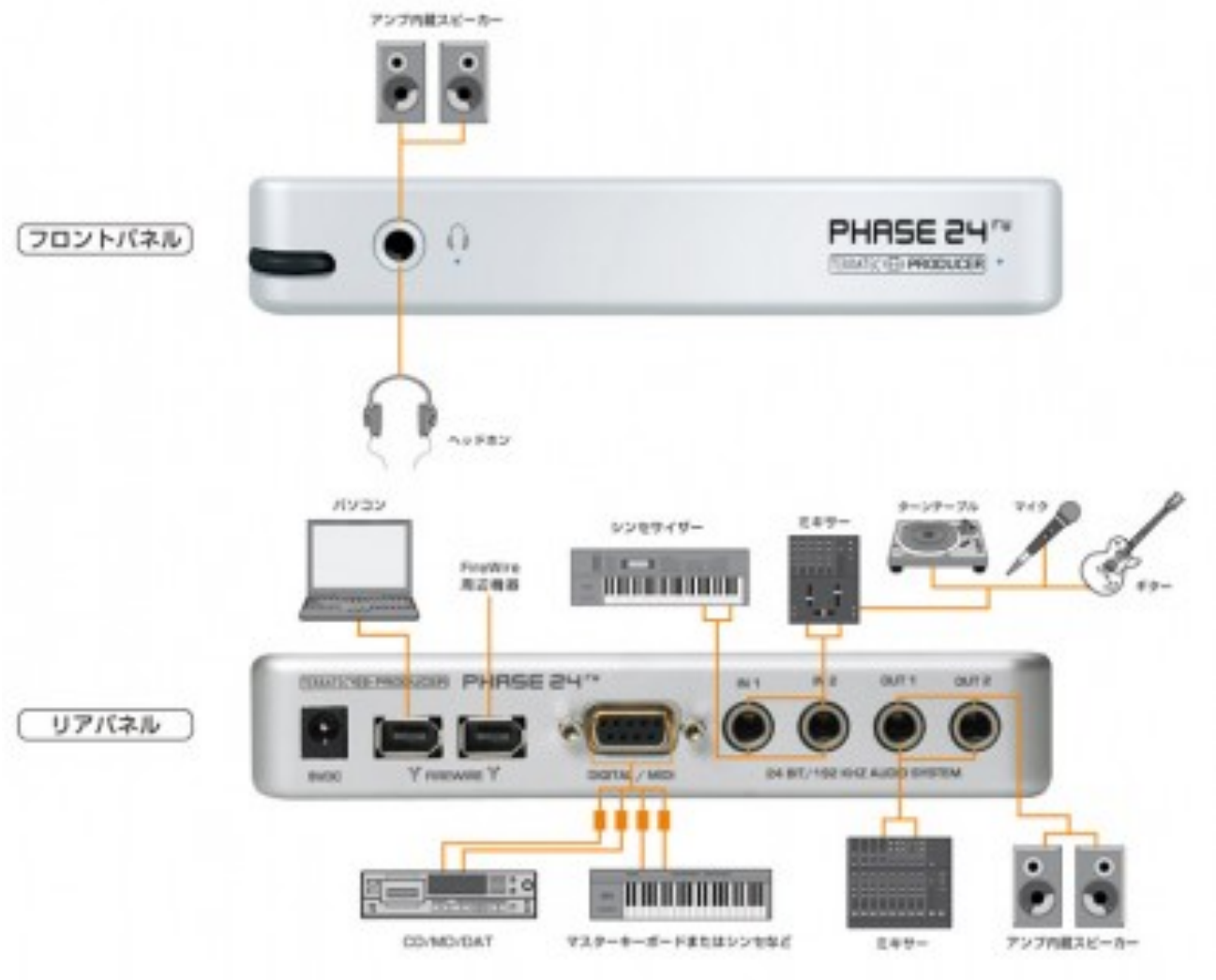






夜間のレコーディングや録音後のミックス・バランスなどを聴くときによく使うのがヘッドフォンです。オーディオ・インターフェースの“PHONES”や“HEADPHONE”端子につないでモニターしましょう。

では、写真を見て接続を少し整理してみましょう。



今月はココまで！　次回は“MIDI の打ち込み”です。打ち込みの初歩の初歩から解説しますので、お楽しみに!!!